

## 経営改善目標の達成に向けた取組状況

### 1 法人の概要（令和元年7月1日現在）

法人名	(福)神奈川県総合リハビリテーション事業団				
設立年月日	昭和48年2月2日	代表者名	理事長 富田 輝司		
所在地	神奈川県厚木市七沢516	電話番号	046-249-2240		
基本財産等	27,000,000 円	県出資額	10,000,000 円	県出資率	37.0 %

### 2 法人運営における現状の課題

- 1 リハビリテーションセンター（以下「リハセンター」という。）の施設機能を十分に発揮するためには、リハセンターがこれまで培ったノウハウを継承し質の高い医療・福祉を継続して提供していけるよう、豊富な経験と専門性を有する職員の確保が必要である。
- 2 第二期指定管理料の上限額(県積算額)は、これまでよりも低い給与水準で積算されており、また、人員配置や収入支出予算についてもかなり厳しい積算となっている。そのため、指定管理料の枠の中で安定的に運営するため、効率的な業務執行体制が必要である。
- 3 これらの両者の要請について、バランスをとった法人運営を行うことが大きな課題である。

### 3 経営改善目標の達成に向けた取組実績等

\* 項目ごとに、下段の（ ）内に目標を、上段に実績を記載してください。

#### 【県民サービスの向上】

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価
1	七沢学園(児童) 家庭復帰率	%	80.0 ( 80.0 )	76.9 ( 80.0 )	66.6 ( 80.5 )	( 80.5 )	( 81.0 )	C
	自己評価の理由（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	利用者の特性に配慮して高校卒業後の地域移行支援を行った結果、家庭復帰としてカウントされない障害者支援施設への移行の比率が例年より高く目標を達成できなかった。			養護学校卒業後の生活の場については、グループホームの利用について学校進路担当と検討し可能性を探る試みを行う。				
	備考							
平成30年度退所者12名中、家庭復帰8名、施設移行4名(措置1名・契約3名)								

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価
2	七沢学園(児童) 強度行動障害児受入	人	0.2 ( 2.0 )	1.0 ( 2.0 )	0.0 ( 2.0 )	( 2.0 )	( 2.0 )	C
	自己評価の理由（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	児童東ユニット（中高生対象）に行動障害を受け入れる個室があるものの、当該ユニットにおいて現在軽度発達障害児の比率が極めて高く、強度行動障害児を受け入れた場合の安全を考慮した場合に受け入れを控える必要があったため、目標を達成できなかった。			新しい利用者の安全を配慮し、短期入所での受け入れを徐々に開始する。				
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価
3	七沢学園(児童) 集中療育	人	12.0 ( 7.5 )	7.0 ( 7.5 )	6.0 ( 8.0 )	( 8.0 )	( 8.5 )	C
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	学年進行に伴う寮移動をした児童の環境変化への配慮で入所時期を調整したことや、集中療育の受け入れで退所した後すぐに次の利用者の入所ができないことがあり、目標をわずかに達成できなかった。			児童相談所からの相談は措置入所の相談が多く集中療育に結びつくことが少ないため、短期利用者に対して集中療育という制度の紹介を強化して利用者につなげる。				
	備考							
利用実績 4/27～7/31、6/27～3/22、8/6～8/27、8/14～11/20、9/3～11/29、1/7～3/31								

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価
4	七沢学園(成人) 家庭復帰率	%	50.0 ( 60.0 )	100.0 ( 60.0 )	100.0 ( 60.5 )	( 60.5 )	( 61.0 )	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	生活訓練事業において地域移行を着実に支援することができたことが目標達成の大きな要因と考えられる。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価
5	七沢学園(成人) 医療重度者受入	人	5.0 ( 3.0 )	5.0 ( 3.0 )	5.0 ( 3.0 )	( 3.0 )	( 3.0 )	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	医療との連携を図り、安定した支援を継続することができ、今年度も目標を達成した。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価
6	七沢学園(成人) 強度行動障害児受入	人	5.0 ( 6.0 )	5.0 ( 6.0 )	5.0 ( 6.0 )	( 6.0 )	( 6.0 )	C
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	昨年度同様、利用者家族の居住地近くの施設に移行する希望が多く、地域の施設の空き状況と利用者とのマッチングがうまくいかず、強度行動障害の方を受け入れている生活介護事業での地域移行が難航していて、新しい強度行動障害者を受け入れられていない。			利用者の希望に配慮して地域移行を進め、受入体制を整えるとともに、寮内の安全・安心に考慮しつつ新規入所者を受け入れることで目標達成に努める。				
	備考							
生活介護の定員は19名で、現在空床がない。また、NO.5とNO.6を合計すると10人(目標9人)で、目標をクリアしている。現在の設備や職員体制等を考慮すると、利用者安全の確保の観点からこれ以上の受け入れは困難である。								

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価	
7	七沢学園(児童・成人) 満足度調査評点	点	3.2 ( 3.0 )	3.3 ( 3.0 )	3.6 ( 3.1 )	( 3.1 )	( 3.1 )	A	
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)				
	第三者からなる苦情解決委員による月2回の相談日を設け、適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。満足度調査の結果は目標値を達成している。								
	備考								

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価	
8	七沢療育園 超・準超重症児受入	人	17.4 ( 10.0 )	16.1 ( 10.0 )	14.1 ( 10.0 )	( 10.0 )	( 10.0 )	A	
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)				
	超・準超重度の方のショートステイを積極的に受け入れ目標数値を上回った。								
	備考								

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価	
9	七沢療育園 満足度調査評点	点	3.7 ( 3.4 )	3.9 ( 3.4 )	3.9 ( 3.5 )	( 3.5 )	( 3.5 )	A	
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)				
	家族の率直な意見に対して職員が対応して改善したことが功を奏し、高い数値を維持できた。								
	備考								

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価	
10	七沢自立支援ホーム 家庭復帰率	%	84.0 ( 90.0 )	87.9 ( 90.0 )	93.3 ( 90.5 )	( 90.5 )	( 91.0 )	A	
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)				
	職場復帰に向けた支援、家庭復帰後の生活の質の向上及び社会生活に向けた支援等を提供することができたため、目標を達成できた。								
	備考								

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価	
11	七沢自立支援ホーム 満足度調査	点	3.5 ( 2.8 )	3.5 ( 2.9 )	3.5 ( 3.0 )	( 3.0 )	( 3.0 )	A	
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)				
	利用者からの要望に対して職員の日ごろの工夫や取組が評価され、目標を達成できた。								
	備考								

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価
12	神奈川県リハ病院 家庭復帰率	%	89.4 ( 80.0 )	86.6 ( 80.0 )	88.0 ( 80.5 )	( 80.5 )	( 81.0 )	A
	自己評価の理由（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	患者及び家族のニーズに対し、専門職の高い技術により的確な医療を提供するとともに、きめ細やかな地域移行準備を行うことで家庭復帰率を達成することができた。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価
13	神奈川県リハ病院 満足度調査評点	点	3.5 ( 3.3 )	3.4 ( 3.3 )	3.5 ( 3.4 )	( 3.4 )	( 3.4 )	A
	自己評価の理由（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	患者にとってわかりやすい医療を提供するとともに、医療総合相談室において利用者からの要望・苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った結果、入院患者満足度調査、外来患者満足度調査を実施し目標値を達成することができた。							
	備考							

#### 【収支健全化に向けた経営改善】

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価
14	七沢学園(児童) 利用率	%	90.6 ( 98.0 )	94.1 ( 98.0 )	91.7 ( 98.0 )	( 98.0 )	( 98.0 )	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	虐待やその傾向にあるケースと自閉症など広汎性発達障害やADHD（注意欠陥多動性障害）等を伴うケースの利用が依然として続き、寮生活になじめる新規入所者を慎重に見極める必要があったため目標を達成することができなかった。				集団の安定を考慮しながら児童相談所や相談支援事業所との連携を強化し利用率向上を試みる。			
	備考							
延利用者数：計画10,731人→実績10,044人（▲687人）								

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価
15	七沢学園(成人) 利用率	%	98.5 ( 93.1 )	96.8 ( 93.1 )	96.3 ( 93.1 )	( 93.1 )	( 93.1 )	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	成人施設の日中活動支援を多く受け入れることで地域のニーズに対応した結果、目標を達成することができた。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価
16	七沢療育園 利用率	%	93.0 ( 97.0 )	91.7 ( 97.0 )	91.8 ( 97.0 )	( 97.0 )	( 97.0 )	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	障害児福祉手当及び特別児童扶養手当の資格喪失要件の見直しに伴い、中期入所利用から短期入所への変更が継続していてベッド調整において空床が生じやすくなっていた。また、1月上旬に園内でインフルエンザが集団発生し約1ヶ月間新規の中短期入所を停止した為、目標を達成できなかった。			特別児童扶養手当等の在宅障害者手当の支給要件の厳密化により、今後有期限の療養介護入所および医療型障害児入所者が医療型短期入所に切替える傾向は続き施設入所利用目標数に達することは困難であるため、医療型短期入所の利用率向上を図る。 冬季のインフルエンザ予防のための取組を一層徹底して行う。				
	備考							
延利用者数：計画13,807人→実績13,064人（▲743人）								

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価
17	七沢自立支援ホーム 利用率	%	89.5 ( 94.1 )	87.0 ( 94.1 )	85.1 ( 94.1 )	( 94.1 )	( 94.1 )	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	周辺の回復期病院等からの利用が減ってしまったことで、利用率が達成できなかった。 また、肢体部門では制度上介護保険を利用する方が多いこと、視覚部門では自宅近くの事業所で訓練を受けることを希望する利用者が多いことにより、新規利用者の受け入れが伸び悩んでいる。			地域の回復期病院や老人保健施設等を定期的に訪問する。 養護学校高等部卒業生の利用を継続させる為に、養護学校との業務連絡会を強化する。 特に視覚部門は、今年度から地域支援センターに設置される「スマートサイト（視覚障害でお困りの方が、気軽に相談できる窓口を各都道府県に1箇所設置する）」を通じて、利用促進を試みる。				
	備考							
延利用者数：計画17,173人→実績15,526人（▲1,647人）								

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	30年度自己評価
18	神奈川リハビリテーショ ン病院 入院患者利用率	%	80.9 ( 90.0 )	90.7 ( 90.0 )	89.9 ( 90.0 )	( 90.0 )	( 90.0 )	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	時季的に夏は脳卒中の発症数が少なくなる傾向にあり、それに伴って平成30年9月から12月まで回復期病棟の利用率が一時的に低下する。秋以降は利用が増加し平成31年1月以降高い利用率を維持することができたが、わずかに目標に届かなかった。			更なる入院審査の迅速化を実施し、待機患者の期間短縮に取り組み、患者確保を強化する。				
	備考							
延利用者数：計画91,980人→実績91,848人（▲132人）								

#### 4 取組実績等についての総括（法人）

平成30年度は神奈川リハビリテーション病院移転後、一年を通じて運営した初めての年であり、利用率の向上や自己収入の増を図るなど経営改善の取り組みを進めていき、今後の安定した経営を行っていくにあたり重要な年となった。

病院では、訓練時間割を変更することで効率的なリハビリテーション訓練を提供することができ、収入の増加につながった。リハセンター再整備計画の進捗に伴う患者導線の変更には安全を最優先に職員が協力して対応した。また患者確保の強化のため、入院審査の迅速化を実施し待機患者の期間短縮に取り組んだ。

福祉施設では利用率が目標に届かない施設があった。しかし、利用者のニーズに寄り添いきめ細やかな対応をすることで、各施設とも利用者満足度は概ね良い結果を得ることができた。また、短期入所枠を積極的に活用してレスパイト等を定期的に受け入れることで障害のある方が地域で生活するための環境作りに貢献することができた。

また、リハセンターの専門性を生かし、リハビリテーションに役立つロボットの実用化に向けて実証実験の協力を行い、リハビリテーションにおける効果検証や、製品に対する評価・改善点の提言を行なった。さらに、リハビリテーションの専門機能を地域の関係機関、関係施設等に提供し、リハセンターと各関係機関及び各施設等が相互に連携を図りながら、地域の保健・医療・福祉の向上に貢献している。

今後も、これまで培ってきた専門技術やノウハウを最大限に活用し、県立施設としての機能を発揮し、経営計画の着実な推進に取り組むとともに、利用率の改善や人員配置・業務の効率化を進め、収支健全化と県民サービスの維持向上に取り組む。

#### 5 取組実績等についての総括（所管課）

神奈川県総合リハビリテーションセンターの再整備については、平成28年6月に福祉棟、平成29年12月に病院本館が新たな建物に移転し運営を開始し、概ね事業計画等の内容どおり事業を実施している。今後は旧本館跡地の外構工事を行い、本年7月末に再整備が完了する予定となっている。また、「さがみロボット産業特区」における実証実験機関として引き続き県施策と連携を図っており、平成29年度に設置された「かながわりハビリロボットクリニック（KRRC）」における取組を含め、高度専門的なリハビリの拠点施設として、さらなる機能強化を図るとともに、十分に機能を発揮するための専門人材の確保と定着に努めていただきたい。

#### 6 第三セクター等改革推進部会の総合評価・今後の取組に向けた意見

評価結果	
B	経営改善目標の達成に向けて、より一層の取組が必要である。 目標達成に向けた受入体制の改善を進めていただきたい。